

## 日常を個性的な視点で

### 名芸大5人が現代美術企画展

現代美術の企画展「日常の実践の練習」が、北名古屋市の名古屋芸術大学アート&デザインセンターで開かれている。キュレーターを務めるのは同大非常勤講師の西田雅希さんで、日常的な光景から連想したオブジェなど十八点が並ぶ。十六日まで。入場無料。作家五人が出展。三宅砂

織さんは、同大にあるポセイドン像を題材に制作した。昨年度に学内で像を移した際、トラックに載せられた様子など、移動する過程の写真を使用。像が自らの移動を見ているような構図の作品に仕上げた。



日常を題材にした作品が並ぶ会場。北名古屋市の名古屋芸術大で

大田黒衣美さんは、ネコの背中に人型のチューイングガムを載せた写真を展示。柔らかな毛の上で人が横たわっているような、不思議な印象を与える。

その他、会場の手すりに立て掛けたダクトパイプや、壁から垂直に固定した脚立など、身近にある道具を使ってイメージを表現した作品も。同センタースタッフの磯部絢子さん(三三)は、「同じテーマでも作風は異なる。五人五色の表現を楽しんで」と鑑賞を呼び掛けた。十三日には、作家によるトークイベントも開く。

(猿渡健留)